

くにたち しらべ



NO. 1

発行日 2008 年 2 月 21 日

編集＝くにたち地域資料ボランティア

発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『 国立駅舎 』

J R 国立駅 駅舎について

国立駅舎の歴史と価値

1. 駅舎の誕生まで

赤い三角屋根で市民に親しまれた旧国立駅は、箱根土地株式会社(現在のプリンスホテル)が建築し、鉄道省(現在のJR東日本)に寄付した請願(せいがん)駅です。大正14(1925)年に工事を着工し、大正15(1926)年4月の開業ですが、民間が建設し寄付した駅というのは全国でも少ない事例です。ではどうして箱根土地がここに駅を作ろうとしたのでしょうか。

当時ここは通称100万坪といわれる谷保村北部の雑木林で、せまい林道以外は道もなく人家もないところで、落ち葉を堆肥にしたり薪(まき)や粗朶(そだ)を採っていました。またこのあたりには甲武鉄道が国有化されすでに鉄道は通っていましたが、国分寺と立川の間に駅はありませんでした。この場所を全部買って分譲住宅として売り出し、駅も作り、神田にある東京商科大学(現一橋大学)などを誘致(ゆうち)して理想的な学園都市をつくりたいという計画でした。こうした背景には大正12(1923)年の関東大震災があります。震災で建物が焼けた東京商科大学の移転計画と、箱根土地の開発構想が結びつき、移転したあとも大学はまちづくりに深くかかわりました。

2. 駅舎とまちづくり

開業当初、「赤い三角屋根に白い壁」という典型的洋風モデルの駅は、箱根土地の開発した分譲地(国立大学町)の玄関口として「広告塔」となり、文化的なまち国立をイメージして、分譲広告には駅の写真が必ず大きく掲載されました。

駅舎は駅前広場に面し、大学通りの中心線よりわずかに東にずらして配置していました。また国立駅舎の正面から見た外観が、わざとシンメトリー(左右対称)を崩して、大学通りからの景観に配慮したものとなっています。

その後、自動改札機の導入と乗降客が増えたことにより、広間東側の壁も撤去され、コンコース(構内通路部分)が拡張されるなどの大幅な改装が行われましたが、基本的な柱配置は変えず、外観に大きな影響を与える改装は行われていませんでした。

駅を造ると同時に開発された国立学園都市は、大正から昭和にかけて欧米の影響を受けて開発された郊外住宅地の代表例です。開発計画のはじめから景観に配慮し、特に駅や駅前広場、大学通りといったみんなの共有する空間を一体的につくりだしました。駅とまちが一体となった優れた都市計画の貴重な事例といわれています。

3. 駅舎の価値

旧国立駅舎自体の価値として以下のことがあげられます。

- ① 旧国立駅は大正15(1926)年建設という希少な大正期の駅舎です。都内では東京駅一築大正3(1914)年、原宿駅一築大正13(1924)年のみが現存しています。また民間が建設し鉄道省に寄付した数少ない請願駅でもあります。
- ② 欧米の田園都市住宅のデザインを導入した個性的な建物です。木造平屋建てでRC布基礎、大きなアーチ窓はロマネスク風ですが、戦後何度も改修したため柱や建具には当時のものは少なくなっています。屋根窓や柱型はすでに残っていません。
- ③ 古いレールの使用。建物に残っているのは9社16種類のレール。八幡製鉄所製造のもの以外は外国製で、カーネギー社(イギリス)をはじめイギリス、ドイツ、アメリカ、ベルギーなどが確認されています。

中央線高架化事業と国立駅舎の保存活動

平成20(2008)年現在、中央線の三鷹駅～立川駅間で連続立体交差事業が行われています。鉄道を連続して立体化することにより、踏切での交通渋滞や事故の解消、鉄道によって分断されている地域の一体化などを実現する事業です。この高架化工事のために赤い三角屋根の旧国立駅舎は、そのままの場所にあると高架化工事が出来ないということで取り壊すことになりました。しかし国立のシンボルとして親しまれてきた旧国立駅舎を失いたくないという多くの市民や市民団体が集まり、保存に向けて募金などの活動が始まりました。国立市や国立市議会でも保存に向けて調査や話し合いを重ねました。とりあえず工事のために駅舎は解体されましたが、現在、国立市が部材を保管し、工事の後ほぼ元の場所に木造で復原(元通りに建てる)することを目指しています。

高架化事業は平成22(2010)年に完成の予定です。

なお国立駅の保存や高架化事業、国立駅周辺のまちづくり計画などについて、くわしくは国立市のホームページをご覧ください。

駅舎関連資料

(1) 国立市関連資料

- ① 国立市史 下巻 (1990)10.B.1
- ② くにとちの歴史 (1995)10.B.1
- ③ 「学園都市くにとち」ー誕生のころー(くにとち郷土文化館図書・1998)10.B.4
- ④ 国立駅周辺プラン報告書ー国立駅舎の価値と保存活用の方向についてー(国立市・2000)10.B.1
- ⑤ 国立駅周辺まちづくり計画検討委員会報告書(国立市・2003)10.S.1
- ⑥ 国立駅周辺まちづくり基本計画資料(国立市・2004)10.S.1
- ⑦ 国立駅周辺まちづくりに関する提案書(国立市・2004)10.S.1
- ⑧ 国立駅周辺まちづくり整備資料(国立市・2005)10.S.1
- ⑨ くにとち市ホームページ www.city.kunitachi.tokyo.jp

(2) 市民団体「赤い三角屋根」資料

- ① 概要版

(3) 市民団体「国立駅舎保存の会」資料

- ① 「くにとち駅舎を残そう」1号～6号まで

『写真のキャプション』

*昭和39年当時の国立駅舎。円形公園に池があり、周りの車の車種が古い。
(くにとち郷土文化館所蔵)



*2006年当時の駅舎

